

MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌

2022年9月

第5号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所

発行人／木嶋 孝慈

編集／教区教化委員会メディア部会

印刷／プラザー印刷株式会社

研修会報告

「岡崎教区慶讃法要お待ち受け大会」開催の意義について

慶讃法要お待ち受け大会のおしらせ

コールアパー インタビュー

教務所人事異動報告



得度研修会

3月30日開催



例年1泊2日で行っている研修ですが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、1日の研修を2回行いました。

内1回は完全オンラインの研修として行いましたが、慣れないオンラインでも真剣に研修に取り組む参加者の姿が印象的でした。対面の研修でもその姿勢は同様で、無事全員得度考査に合格することができました。

新任教師のつどい

4月23日、5月24日開催



参加者同士の交流を深めるため、宿泊を伴う研修として行ってきましたが、今年度もコロナ感染予防のため1日研修となりました。

参加者からは、自分の思いを自由に話し合い、有意義な時間となったとご意見をいただきました。新任教師の方々にとって教区内に仲間を作る良い機会となるよう、今後も企画してまいります。

伝道研修会

5月9日、6月28～29日開催



講師：伊藤 元 氏
(九州教区徳蓮寺 前住職)

今年度は「通夜を考える」をテーマに、第1回は蒲池勢至氏、第2回は伊藤元氏を講師に迎え、伝道研修会を開催しました。

学術的な見地からの通夜、住職としての経験からとらえる通夜ということを両講師からお話しただき、座談を通して参加者同士が意見を交換することで、各々が改めて通夜について考える機会となりました。

ひとりからはじめる 子ども会講習会

5月18日～19日開催



本山の慶讃事業特別企画である当講習会は、コロナ下により2カ年度の延期を経て開催されました。参加者は11名となり、子ども会体験・ゲーム・絵本読み聞かせ・班別座談などをおし、最終日は班別子ども会発表を行いました。

「これなら私のお寺でもできるかなと思った」という参加者からの声もあり、今後の児童教化に役立つ学びとなりました。

災害ボランティア研修会

6月2日開催



講師：高山 信雄 氏
(おてらおやつクラブ理事)

コロナ下で今必要とされている支援は何か。講師から「おてらおやつクラブ」の活動内容や支援形態についてお話いただき、実際に物資を送る発送体験会が行われました。

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされた食品等を仏さまからの「おさがり」としていただき、支援団体の協力のもと、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」として届ける活動をされています。

メディア研修会

6月8日開催



講師：岡田 吉生 氏
(ブラザー印刷 前会長)

今年度は寺報作りの参考となるよう、岡田吉生氏（ブラザー印刷前会長）を講師に迎え、広報誌の制作をテーマにお話いただきました。

広報することがなぜ重要なのか、広報を実際に行つにあたって大切なことは何かということを経験を通して話していただき、とても興味深い内容の研修となりました。

「岡崎教区慶讃法要お待ち受け大会」開催の意義について

岡崎教区宗祖親鸞聖人御誕生
八百五十年・立教開宗八百年
慶讃事業推進委員会

委員長 稲前 恵文



2023年に真宗本廟において厳修される「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に先立ちまして、岡崎教区では2022年10月13日（木）に「お待ち受け大会」を岡崎教区会館と三河別院（帰敬式）を会場に開催いたします。

この大会は、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」を掲げ、宗祖の御誕生と立教開宗の意義を私たち一人ひとりが問い尋ね、慶讃法要にかけられた願いを確かめるという趣旨のもとに開かれます。

慶讃法要について、真宗本廟お待ち受け大会の記念法話において池田勇諦氏（同朋大学名誉教授）は「慶讃法要」と言いますが、私にとって慶讃法要とは何なのか。これをどうしても一度、自分に問わなければならない。なぜか。もしも『私にとって』というこの一点が抜け落ちると、もう慶讃

法要は私には関係がなくなる。つまり第三者になる。

『「本山で大きな法要が動まるそう」と、見物人ではないことになってしまいます。（中略）親鸞聖人の御誕生を喜ぶということの根底には、何はともあれ、わが身の誕生が受け取れるか受け取れないかということが、問われているのです。』（東本願寺出版「慶喜奉讃に起つ」P. 8-9）と示されました。その意味において、このたびの岡崎教区お待ち受け大会は教区主催ではありますが、「待ち受ける」主語は誰なのかと言えは他ならぬ私自身であることが知られてまいります。私にとっての慶讃法要であり、お待ち受け大会であると言えるのではないのでしょうか。

大会当日は、大谷暢裕門首の剃刀による帰敬式と尾畑文正氏（同朋大学名誉教授）による記念講演を実施いたします。また、大会の模様は「岡崎教区YouTubeチャンネル」よりライブ配信をいたします。教区の皆さまをはじめとして有縁の方々が映像配信の視聴を通してお待ち受け大会にご参加いただき、聴聞の場が開かれ、あらためて念仏申す歩みを確かめていく機縁となることを念じております。

わたしの心動かされた言葉

「ただごとでない」

本廟奉仕団へ百回以上参加された門徒Yさんは、生前いつも「ただごとでない」と言って親鸞聖人の教えに出遇えた喜びを語られ、また日常生活の中で他人から見れば普通の出来事や体験も「ただごとでない」と拜んでいかれました。

暮らしの中で「当然」「当たり前」といった思いが私の心に起こる時、ふとYさんの「ただごとでない」の声が思い出されます。

慶讃法要に遇わせていただくことは、私にとって有ること難き「ただごとでない」尊いご縁と受けとめ、領いてまいりたいと思っています。

書籍の紹介

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃記念
慶喜奉讃に起つ
275円（税込）

池田勇諦・楠信生・金子大榮・横超慧日著

「親鸞聖人のご誕生を喜ぶということの根底には、何はともあれ、わが身の誕生が受け取れるか受け取れないか」という大切な課題から、南無阿弥陀仏の所在をたずねていく。

本のお求めはこちら→



岡崎教区
宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年



慶讃法要

お待ち受け大会



記念講演
同朋大学名誉教授
おばたぶんしょう
尾畑文正氏

三重県四日市市生まれ。
同朋大学文学部仏教学科卒業。
大谷専修学院卒業、大谷大学大学院博士課程満期退学。
同朋大学助教授、教授、学長、名誉教授、特任教授。
2015年南米開教監督。
真宗大谷派泉称寺前住職。
2012年「曇鸞浄土教の研究 願生浄土の仏道」で大谷大学博士（文学）。真宗学専攻。



真宗大谷派岡崎教務所

愛知県岡崎市梅園町1丁目1-2
☎0564-22-2136
<https://www.okazaki-kyoku.net/>



インターネットでライブ配信をしますので、QRコードを読み取っていただくか、YouTubeで「岡崎教区」と検索してご視聴ください。

2022年
10月13日(木)
13:00 開会 15:30 閉会
会場
岡崎教区会館大ホール
（お待ち受け大会）
三河別院本堂
（帰敬式・サテライト）

この度のお待ち受け大会は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を予見できないことから、従来の一堂に会する形式だけではなく、動画配信サイト「YouTube」にてオンライン配信も併用します。ぜひご視聴ください。

岡崎教区合唱団コールアバー 結成 15 周年記念コンサート 開催報告

2022年5月11日、岡崎教区会館大ホールにて、岡崎教区合唱団コールアバーの結成15周年記念コンサートが開催されました。当日は岡崎教区ゆかりの田原惟信さんの生涯を歌った記念曲「流転の島」も演奏されました。

団長
野々山眞知子さん



編集：岡崎教区合唱団コールアバーについて、なりたちと現在の活動についてお聞かせください。

野々山：元々は「坊守コース」という名前で活動していて、2017年に岡崎教区合唱団となりました。名前のコールは合唱、アバーはサンスクリット語で光明を意味しています。現在22名の団員が所属しています。月に一度、第一曜日に定期練習を行う他、3月の三河別院報恩講、11月の三河別院報徳会、7月の国立駿河療養所での発表会などの活動をしています。その他各お寺での催しに出演させていただくこともあります。

編：コロナ下による延期を経ての記念

コンサート開催となりました。この間の活動の上での苦労などがあつたと思います。

野：緊急事態宣言中の活動は休止しました。まん延防止措置期間中は、マスクや消毒などの感染対策を行った上で練習を実施しました。岡崎教務所の広いホールが私たちの練習場所であることは幸いでした。

編：15年間という活動の中で、特に心に残っていることはありますか？

野：2017年の沖縄現地研修をきっかけに、その翌年と翌々年に「岡崎教区合唱団コールアバー沖縄交流研修会」を開催し、沖縄の「合唱団コールグリーンハーモニー」の方々と市民の皆様との交流ができたことです。また、そのご縁が、今回発表した記念曲「流転の島」につながっています。

編：今後の活動について

野：仏教讃歌以外の歌も取り入れていき、より広い活動にしていきたいと思っています。

「流転の島」作曲家

清澤久恵さん



編：記念曲「流転の島」の作曲はスムーズにできたのでしょうか？

清澤：元々作曲の活動と関係無く、教区の現地研修で初めて沖縄を訪れ、そのご縁から今回の記念曲を作曲させていただくことになりました。しかし実際にはなかなか筆が進まない日々が続きました。田原惟信さんの足跡を辿って学んだ沖縄の戦時中の状況に大変ショックを受け、考えすぎてしまったのだと思います。そこで、その複雑な思いをそのまま率直に表現しようと思いい曲にしました。

田原大興さんの作詞された歌詞には重みのある言葉がたくさんあります。それぞれの言葉を大切に、音程と言葉のイントネーションを揃えて、聴く人に伝わりやすいように気をつけました。また、沖縄の人々のエネルギーがシュッや、柔らかなやさしやかさも表現しました。

また、何と言ってもこの曲はコールアバーのために作らせていただいた曲ですので、皆さんの声域に最も合う音程や曲調を意識しました。

こうして皆さんの前で発表できた

ことが嬉しいのです。



教務所からのお知らせ 人事異動報告

「着任挨拶」



岡崎教務所主事補
あさこ 麻子
あさこ 麻子
あさこ 麻子

このたび、8月1日付で岡崎教務所主事補を拝命いたしました、善澤麻子と申します。出身は大阪教区で、前任は東本願寺出版で編集業務に従事しておりました。東本願寺出版では、『同朋新聞』の編集作業を通して、全国の読者の皆さまから届けられた声に後押しをいただき、その出会いを大切にしながらお仕事をさせていただきました。

岡崎という地はもとより、東海地方で過ごさせていただくことは初めての経験であり、教務所主事補の職責に不安を感じつつも、岡崎教区にご縁をいただきましたこと大変うれしく思います。岡崎教区におかれましては、来る宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会を目前に控え、慶讃法要・慶讃事業を機縁として、教区の将来が拓かれて

「退任挨拶」



岡崎教区第14組
西光寺
かずね 和音
きよさわ 清

このたび、7月31日付をもちまして、退職いたしました。

宗務役員として、本山、北海道、高田、そして岡崎教区と15年間勤めさせていただきました。岡崎教区においては、2019年8月に着任し、以来3年にわたり、教区の皆様方には大変お世話になり、お育ていただきましたこと心から

御礼申し上げます。

地元の教区で仕事ができるという喜びも束の間に、新型コロナウイルスの影響によって、教化事業など様々なことが中止を余儀なくされ、その対応に追われる毎日でした。このような時代だからこそ、真宗の教えを「届けたい」「伝えたい」という想いから、この教区広報誌『MAST』を発行することができ、皆様のおかげと本当にありがとうございます。

宗務役員を務めていたからこそ、いくつもの教区にご縁をいただき、たくさんの方々に出遇わせていただきましたことは、私にとってかけがえのない財産であります。

今後は、これまでに皆様からご指導いただきましたことを糧に、ご門徒さんと対話を重ねる中で、地域に開かれた寺院を目指してまいります。

そして、教区の一員として、組、教区、本山を皆様と共に支えてまいりたいと思いますので、今後ともこれまでと変わらぬご指導ご鞭撻のほどお願い申しあげ、ご挨拶に代えさせていただきます。

合掌

第15期真宗学院

4月に第15期真宗学院入学式が執り行われ、7名の学院生が入学しました。学院生は、仕事や子育て等と両立をしながら毎週土曜日の夜間に行われる授業を受け、真宗大谷派教師資格取得に向け、3年間学びます。

5月には真宗本廟奉仕団で本山へ行き、お内仏のお給仕や清掃奉仕をしました。また、藤元雅文先生の講義を受け、日ごろの悩みや疑問について語り合いました。

本廟奉仕を通じて、学院生同士の仲が更に深まりあったと思います。



住職就任

第25組	常樂寺	石川 明和	(2022年4月28日任命)
第30組	長興寺	杉浦 圭	
第7組	本宗寺	堀田 充	(2022年5月28日任命)
第9組	妙隆寺	大溪 昌寛	
第28組	宗恩寺	鷹見 耕	(2022年6月28日任命)

編集後記

紙面からもわかるように、感染症拡大の影響で中止や延期されていた行事や学習会が再開されています。

その中、いよいよ10月13日には、「岡崎教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会」が開催されます。

親鸞聖人が生涯をかけてお伝えくださったお念仏。慶讃法要に先がけて、その御法に出遇えた感動を表明する場がお待ち受け大会です。

今後、慶讃法要に向けて、

『MAST』紙面もますます充実していきます。

(おやま)



法語

悩みがなくなることが救いではない。
共に悩めることが救いです

安田 理深

やすだ りじん
安田 理深

1900年(明治33年)～1982年(昭和57年)兵庫県生まれ。私塾相應学舎を主宰する。

※この法語は『日めくり法語 一語一遇』(東本願寺出版)より抜粋しました。

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所 (MAST担当) okazaki@higashihonganji.or.jp



岡崎教区ホームページ



岡崎教区facebook